

【院内フォーミュラリ(推奨薬リスト)】

薬事審議会 フォーミュラリ小委員会 2023年5月作成

神経障害性疼痛治療薬(Ca²⁺チャネル α 2 σ リガンド薬)

	製品名	薬価(円)
第一選択薬	プレガバリン OD 錠 75mg「ファイザー」	24.3 円
	プレガバリン OD 錠 25mg「ファイザー」	14.9 円

★腎機能低下患者に投与量に注意すること。下記表を参考にすること。

*プレガバリン OD 錠「ファイザー」はリリカ OD 錠のオーソライズドジェネリックです。

★高齢者には少量より投与開始を検討すること。

Ccr(mL/min)	Ccr \geq 60	30 \leq Ccr<60	15 \leq Ccr<30	Ccr<15	血液透析後の 補充用量
1日投与量	150~600mg	75~300mg	25~150mg	25~75mg	
初期投与量	1回75mg 1日2回	1回25mg1日3回 又は 1回75mg1日1回	1回25mg1日1回もしくは 2回 又は 1回50mg1日1回	1回25mg 1日1回	25又は50mg
維持量	1回150mg 1日2回	1回50mg1日3回 又は 1回75mg1日2回	1回75mg1日1回	1回25又は 50mg 1日1回	50又は75mg
最高投与量	1回300mg 1日2回	1回100mg1日3回 又は 1回150mg1日2回	1回75mg1日2回 又は 1回150mg1日1回	1回75mg 1日1回	100又は150mg

*薬価は 2023/5/1 時点のものであり、変動することがあります。

神経障害性疼痛に使用される薬剤

医薬品名	プレガバリンOD錠「ファイザー」	リリカOD錠	タリージェ錠	デュロキセチンカプセル「DSEP」	サインバルタカプセル	トリプタノール錠10																																																							
規格	25mg、75mg	25mg、75mg	5mg、10mg	20mg		10mg																																																							
一般名	プレガバリン		ミロガバリン		デュロキセチン																																																								
採用区分	院内外採用	院外採用	院内外採用	院内外採用	院外採用	院内外採用																																																							
薬価	25mg: 17.6 円 75mg: 28.9 円	25mg: 45.2 円 75mg: 75 円	5mg: 100.4 円 10mg: 138.8 円	39.6 円	105.8 円	9.8 円																																																							
効能・効果	神経障害性疼痛、線維筋痛症に伴う疼痛		神経障害性疼痛	うつ病・うつ状態 下記疾患に伴う疼痛、糖尿病性神経障害、線維筋痛症、慢性腰痛症、変形性関節症		精神科領域におけるうつ病・うつ状態、夜尿症、末梢性神経障害性疼痛																																																							
用法・用量 (神経障害性疼痛に対して)	<p>神経障害性疼痛 成人には初期用量: 1日150mgを1日2回に分けて経口投与し、その後1週間以上かけて1日用量として300mgまで漸増する。 なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日最高用量は600mgを超えないこととし、いずれも1日2回に分けて経口投与する。</p>		<p>成人には、初期用量1回5mgを1日2回経口投与し、その後1回用量として5mgずつ1週間以上の間隔を空けて漸増し、1回15mgを1日2回経口投与する。 なお、年齢、症状により1回10mgか15mgの範囲で適宜増減し、1日2回投与する。</p>	<p>〈うつ病・うつ状態、糖尿病性神経障害に伴う疼痛〉 通常、成人には1日1回朝食後、デュロキセチンとして40mgを経口投与する。投与は1日20mgより開始し、1週間以上の間隔を空けて1日用量として20mgずつ増量する。 なお、効果不十分な場合には、1日60mgまで増量することができる。 〈線維筋痛症に伴う疼痛、慢性腰痛症に伴う疼痛、変形性関節症に伴う疼痛〉 通常、成人には1日1回朝食後、デュロキセチンとして60mgを経口投与する。投与は1日20mgより開始し、1週間以上の間隔を空けて1日用量として20mgずつ増量する。</p>		<p>〈末梢性神経障害性疼痛〉 アミトリプチリン塩酸塩として、通常、成人1日10mgを初期用量とし、その後、年齢、症状により適宜増減するが、1日150mgを超えないこと。</p>																																																							
腎障害時の用法・用量	<p>〈神経障害性疼痛〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クレアチニンクリアランス (mL/min)</th> <th>≥60</th> <th>≥30-<60</th> <th>≥15-<30</th> <th><15</th> <th>血液透析後の補充用量^{注)}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1日投与量</td> <td>150~600mg</td> <td>75~300mg</td> <td>25~150mg</td> <td>25~75mg</td> <td></td> </tr> <tr> <td>初期用量</td> <td>1回75mg 1日2回</td> <td>1回25mg 1日3回 又は 1回75mg 1日1回</td> <td>1回25mg 1日1回 もしくは2回 又は 1回50mg 1日1回</td> <td>1回25mg 1日1回</td> <td>25又は 50mg</td> </tr> <tr> <td>維持量</td> <td>1回150mg 1日2回</td> <td>1回50mg 1日3回 又は 1回75mg 1日2回</td> <td>1回75mg 1日1回</td> <td>1回25又は 50mg 1日1回</td> <td>50又は 75mg</td> </tr> <tr> <td>最高投与量</td> <td>1回300mg 1日2回</td> <td>1回100mg 1日3回 又は 1回150mg 1日2回</td> <td>1回75mg 1日2回 又は 1回150mg 1日1回</td> <td>1回75mg 1日1回</td> <td>100又は 150mg</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 2日に1回、本剤投与6時間後から4時間血液透析を実施した場合のシミュレーション結果に基づく。</p>					クレアチニンクリアランス (mL/min)	≥60	≥30-<60	≥15-<30	<15	血液透析後の補充用量 ^{注)}	1日投与量	150~600mg	75~300mg	25~150mg	25~75mg		初期用量	1回75mg 1日2回	1回25mg 1日3回 又は 1回75mg 1日1回	1回25mg 1日1回 もしくは2回 又は 1回50mg 1日1回	1回25mg 1日1回	25又は 50mg	維持量	1回150mg 1日2回	1回50mg 1日3回 又は 1回75mg 1日2回	1回75mg 1日1回	1回25又は 50mg 1日1回	50又は 75mg	最高投与量	1回300mg 1日2回	1回100mg 1日3回 又は 1回150mg 1日2回	1回75mg 1日2回 又は 1回150mg 1日1回	1回75mg 1日1回	100又は 150mg	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">腎機能障害の程度 (CLcr : mL/min)</th> </tr> <tr> <th>軽度 (90>CLcr≥60)</th> <th>中等度 (60>CLcr≥30)</th> <th>重度 (血液透析患者を含む) (30>CLcr)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1日投与量</td> <td>10~30mg</td> <td>5~15mg</td> <td>2.5~7.5mg</td> </tr> <tr> <td>初期用量</td> <td>1回5mg 1日2回</td> <td>1回2.5mg 1日2回</td> <td>1回2.5mg 1日1回</td> </tr> <tr> <td>最低有効用量</td> <td>1回10mg 1日2回</td> <td>1回5mg 1日2回</td> <td>1回5mg 1日1回</td> </tr> <tr> <td>推奨用量</td> <td>1回15mg 1日2回</td> <td>1回7.5mg 1日2回</td> <td>1回7.5mg 1日1回</td> </tr> </tbody> </table>		腎機能障害の程度 (CLcr : mL/min)			軽度 (90>CLcr≥60)	中等度 (60>CLcr≥30)	重度 (血液透析患者を含む) (30>CLcr)	1日投与量	10~30mg	5~15mg	2.5~7.5mg	初期用量	1回5mg 1日2回	1回2.5mg 1日2回	1回2.5mg 1日1回	最低有効用量	1回10mg 1日2回	1回5mg 1日2回	1回5mg 1日1回	推奨用量	1回15mg 1日2回	1回7.5mg 1日2回	1回7.5mg 1日1回	<p>添付文書記載 ・高度の腎機能障害のある患者 投与しないこと。本剤の血中濃度が上昇することがある。 高度の腎障害患者〔12例(男性10例、女性2例)：クレアチニンクリアランス値が30mL/min未満〕と健康成人〔12例(男性10例、女性2例)：Cr値が75mL/min以上〕との間でデュロキセチン60mg空腹時単回経口投与時の薬物動態を比較したとき、高度の腎障害患者においては健康成人と比べてT1/2には有意な差は認められなかったが、Cmax及びAUCはいずれも約2倍に増大し、それぞれ有意差が認められた(外国人によるデータ)</p>	<p>添付文書記載なし 日本腎臓薬物療法学会誌 腎機能別薬剤投与方法一覽では末期腎不全、血液透析、腹膜透析患者にも腎機能正常者と同じ投与量と記載あり 肝代謝の薬剤</p>
クレアチニンクリアランス (mL/min)	≥60	≥30-<60	≥15-<30	<15	血液透析後の補充用量 ^{注)}																																																								
1日投与量	150~600mg	75~300mg	25~150mg	25~75mg																																																									
初期用量	1回75mg 1日2回	1回25mg 1日3回 又は 1回75mg 1日1回	1回25mg 1日1回 もしくは2回 又は 1回50mg 1日1回	1回25mg 1日1回	25又は 50mg																																																								
維持量	1回150mg 1日2回	1回50mg 1日3回 又は 1回75mg 1日2回	1回75mg 1日1回	1回25又は 50mg 1日1回	50又は 75mg																																																								
最高投与量	1回300mg 1日2回	1回100mg 1日3回 又は 1回150mg 1日2回	1回75mg 1日2回 又は 1回150mg 1日1回	1回75mg 1日1回	100又は 150mg																																																								
	腎機能障害の程度 (CLcr : mL/min)																																																												
	軽度 (90>CLcr≥60)	中等度 (60>CLcr≥30)	重度 (血液透析患者を含む) (30>CLcr)																																																										
1日投与量	10~30mg	5~15mg	2.5~7.5mg																																																										
初期用量	1回5mg 1日2回	1回2.5mg 1日2回	1回2.5mg 1日1回																																																										
最低有効用量	1回10mg 1日2回	1回5mg 1日2回	1回5mg 1日1回																																																										
推奨用量	1回15mg 1日2回	1回7.5mg 1日2回	1回7.5mg 1日1回																																																										
<p>神経障害性疼痛ガイドラインではガバペン(ガバペンチン)(院外採用)も第一選択薬として記載されているが他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む)に対する抗てんかん薬との併用法にしか適応がないため、今回は記載なし</p> <p>神経障害性疼痛ガイドラインではノリトレン(ノルトリプチリン)(院外採用)も第一選択薬として記載されているが精神科領域におけるうつ病およびうつ状態(内因性うつ病、反応性うつ病、退行期うつ病、神経症性うつ状態、脳器質性精神障害のうつ状態)にしか適応がないため、今回は記載なし</p> <p>神経障害性疼痛ガイドラインではトフラニール(イミプラミン)(院外採用)も第一選択薬として記載されているが精神科領域における精神科領域におけるうつ病・うつ状態、遺尿症(昼・夜)にしか適応がないため、今回は記載なし</p>																																																													